



夏の交通事故防止 県民運動実施

7月11日(土)～20日(月・祝)

夏は暑さのため注意力が散漫になり、交通事故が多発する時期です。

～高齢者の交通安全～

思いこみや不注意からハッとすることがありませんか？

○一時停止の標識がない交差点でも一旦止まって安全を確認して下さい。

○道路を横断する時は、ゆとりを持って安全を確認して下さい。
○夜間の外出には、反射材や明るい色の服を身につけて下さい。

大垣警察署管内では高齢者の方の交通事故が多発しています。

自転車利用の方について、特に交通指導の強化を図っています。



岐阜県公衆に著しく迷惑をかける行為等の防止に関する条例の一部改正

改正点1 悪質で執拗な嫌がらせ行為

1回の行為であっても下記のような執拗な嫌がらせ行為は処罰されます。

- ・自宅などに押しかけ、長時間に渡りインターフォンを鳴らし玄関ドアを叩き続ける行為
- ・断ったにも関わらず、立ちふさがる、追従する等して長時間しつこくつきまとう行為

改正点2 SNS等を利用した嫌がらせ行為

フェイスブック・ツイッター・ライン等のSNSを使った下記のような嫌がらせ行為は処罰されます。

- ・相手が拒否するのにSNS等のメッセージ機能を利用したメール・スタンプ・絵文字等反復して送信する行為



室内熱中症に注意!!

気温が高くなるこの時期、熱中症により救急搬送される傷病者が増加します。熱中症というと屋外での対策が目がいきがちですが、日常生活において屋内にいるときに発症する「室内熱中症」が増加しています。



●直射日光も当たらない室内で、なぜ熱中症になるのでしょうか？

これには2つの原因があります。1つ目は、室内では熱中症にならないだろうという油断です。

屋外でスポーツなどをする時は、水分補給をするなど誰でも熱中症予防を心がけますが、室内にいると「大丈夫だろう」という安心感があります。そうすると、暑く感じても水分補給をしなかったり、室内の温度を下げる工夫をしなかったりします。

2つ目は、節電意識からエアコンや扇風機を使わない人が増えてきていることです。

特に、東日本大震災以降は節電意識が高まっていて、多少暑くてもエアコンを使わないという人が増えています。室内が28度以上で閉め切った部屋の場合や25度以上の熱帯夜だと、室内でも熱中症にかかるリスクが高いことがわかっ

てきています。

●どのような症状があらわれる？

熱中症は、重症度によって「Ⅰ度(軽度)」、「Ⅱ度(中等度)」、「Ⅲ度(重度)」に分類されますが、以下の症状が出ていたら熱中症の危険があります。

- 通常より高い体温
- 乾いた皮膚(全く汗をかかない)
- ズキンズキンとする頭痛
- めまい、吐き気
- 意識障害

●熱中症を予防しよう!

熱中症予防のポイントは、喉が渇く前からこまめに水分補給すること、スポーツ飲料などのナトリウム、電解質、適度な糖分が摂取できるものを飲むことが大切です。

日ごろからウォーキングやジョギングなど適度な運動をして、汗をかく習慣を身につけることで、暑さに対応しやすい体になり、元気に夏を乗り切ることができます。